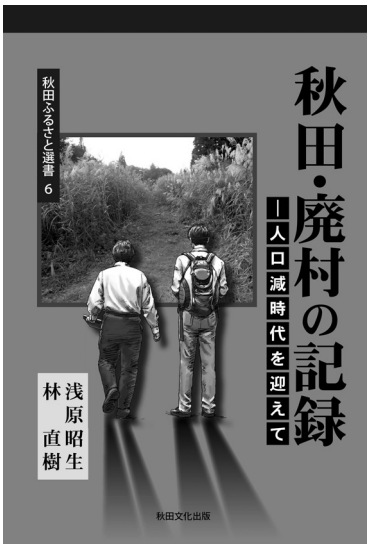
地方小出版情報誌
アクセス

毎月1回　1日発行
購読料　定価150円
（本体139円）
年間1,500円（税込み）
振替　00120-0-19017

発行所　㈱地方・小出版流通センター
編集　アクセス編集委員会
〒162-0836　東京都新宿区南町20
TEL.03-3260-0355　FAX.03-3235-6182

地方出版と自費出版の間で育った「廃村」というライフワーク

文・Team HEYANEKO代表　浅原 昭生



『秋田・廃村の記録－人口減時代を迎えて』
著者：浅原昭生・林 直樹
発行：秋田ふるさと育英会
発売：秋田文化出版
シリーズ：秋田ふるさと選書6
1,500円＋税／四六判・208ページ
ISBN4-87022-572-5
2016年10月20日発行

いろいろな縁の重なりから、秋田ふるさと育英会、秋田文化出版から本を出すことができた。

わが国は人口減の時代に突入したが、すでに様々な理由で「人が住まなくなった集落」、すなわち「廃村」が全国に数多く点在している。

1981年3月、旅先の新潟県で偶然廃村を訪ねて以来､私は681か所（「廃村千選」では503か所）の廃村に足を運んだ（2016年10月現在）。大阪で生まれ育ち、東京の教育団体で編集業務に就き、埼玉に住む私にとって、廃村は非日常の場所であり、そこには「わびしさ」「さびしさ」とともに「のどかさ」「おどろき」があふれている。そして掘り下げていくごとに、その魅力を強く感じるようになった。

そして、「廃村」がライフワークとして育っていく間には、地方出版、自費出版等の本の存在があり、多くの方々との出逢いがあった。

地方出版社の本を通じて秋田県在住の廃村の先生と出逢う

1998年秋、神保町の三省堂本店4階、地方史のフロアで、『秋田・消えた村の記録』という本と出逢った。

三省堂本店は、1978年夏、当時高校2年生だった私が初めて東京を訪ねたとき「すごい本屋があるもんだな」と思った大きな書店だ。

社会人となって東京・埼玉に越してからは、三省堂本店に足を運んで心当たりのフロアで「面白い本はないか」と探すことが楽しみとなった。1990年代は検索で本を探し、ネット書店で購入するという時代ではなかった。

秋田県内125か所の消えた村について網羅し、丹念にまとめた『秋田・消えた村の記録』は、どこにどのような廃村があるのか、断片的にしか知らなかった私にとって驚くべき内容だった。無明舎出版という秋田の地方出版社の刊行（1997年11月発行）で、著者の佐藤晃之輔先生は大潟村で農家をされているという。

奥付に連絡先が載っていたので、およそ1年後の1999年10月、「ここには行っておきたい」と思った秋田県内8か所の廃村を訪ねるオフロードバイクでの旅とあわせて、佐藤先生に連絡をとって大潟村を訪ねた。

佐藤先生とは県内の過疎集落に同行し、「廃村や過疎の村は地域の方のものであり、“見せていただく”という気持ちを大切にする」などの心構えを教わった。このとき、先生と年配の地域の方との話を横から聞いたが、その内容は半分ぐらいしかわからなかった。「地域の方への聞き取りは、地元の方でないとできないものなんだろうなあ」と思った。

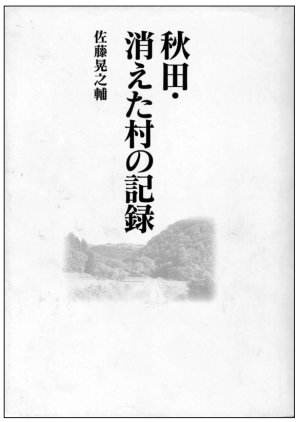
この旅の様子をまとめ、「HEYANEKOのホームページ」という個人Webに掲載して以来18年間、私は廃村への旅を続け、事前の調べもの、事後のまとめ等、一貫した動きを継続している。

自費出版の本を通じて書肆アクセス、地方・小出版流通センターと出逢う

翌2000年は、北は秋田県から西は長崎県まで、全国各所の心当たりの廃村へ旅をした。旅の記録はすべてWebでまとめ、それをもとにして2001年2月、『廃村と過疎の風景』という私家版の冊子を制作した。

つくったのはよいが、どのように読者に提供するかはあまり考えていなかった。個人Webを通じて頒布を展開したが、不十分なことは明らかである。新たに展開することになったのが、「コミックマーケット」などの同人誌即売会と、神保町「書肆アクセス」などの自主流通本取扱書店だった。

2003年春、店頭を訪ねたことから取引きが始まった書肆アクセスでは、畠中理恵子店長によく面倒をみていただいた。日経新聞の記者の「何か面白いネタはないか」という日経新聞の記者の問いかけに、できたばかりの『廃村と過疎の風景』第2集を畠中店長



『秋田・消えた村の記録』／佐藤晃之輔著／無明舎出版刊／A5版220頁／3,600円＋税／ISBN978-4-89544-174-2（現在絶版）

『廃村と過疎の風景』／浅原昭生著／HEYANEKO刊／B5版　118頁／1,000円＋税／ISBN978-4-9903475-1-2（2001年刊）

『廃村と過疎の風景8』／浅原昭生著／HEYANEKO刊／B5版　164頁／1,500円＋税／ISBN978-4-9903475-8-1（2014年刊）

が紹介したことをきっかけに、2006年3月3日付け日経新聞文化欄に「廃村の記憶 風化させず」という記事が掲載された。このことは、その後の活動の大きな励みとなった。書肆アクセスはまさに「本と人との出逢いの場」だった。

2007年11月、書肆アクセスの閉店に伴い、地方・小出版流通センターで取り次いでいただく形での書店・ネット書店との取引きが始まった。窓口の岡安清さんと出逢ったのはこの時である。12月には『廃村と過疎の風景』（第1集・第2集）が三省堂本店4階「地方・小出版コーナー」に並んだ。大阪の高校生が初めて足を運んでから29年目、胸がときめく出来事だった。2008年3月、第2集は情報誌「アクセス」の売行良好書（三省堂書店神保町本店センター扱い図書）のベスト5に入った。

2009年から2014年にかけては、『廃村と過疎の風景』の新刊（第3集～第8集）を6年連続で制作した。自費出版本制作のピークと言ってよい。第4集・第5集は「廃村千選」という資料集、第6集では「集落の記憶」という地域の方への聞き取りを含む読み物を加えた資料集、第7集・第8集は「全県踏破への道」という旅行記という感じで、それぞれに個性を持たせた。私は自己流ながら、全国各地の地域の方への聞き取りができるようになっていた。

なお「集落の記憶」は、旅行記等を加えることで、2016年5月、イカロス出版刊行のムック本『廃村をゆく2』として結実した。

研究の廃村フィールドワークの中で再び秋田の地方出版社と出逢う

2014年、思いがけないところから、新たな展開が始まった。1月、国立環境研究所の研究員 深澤健太さんからWebを通じてのメールがあり、廃村における野生動植物の研究に係わることになった。9月、深澤さんが企画してくれた筑波での講演会「廃村と過疎の風景2014」を通じて、東京大学大学院農学生命科学研究科の林直樹さん（所属は当時）との出逢いがあった。林さんは、人口減時代を見据えた無居住化を含む過疎地域からの積極的な撤退を提言されていた。廃村を人文・社会科学の分野と思っていた筆者にとって、生命科学や農学から見る深澤さん、林さんの動きは新鮮なものだった。

林さんに『秋田・消えた村の記録』を紹介し、読んでいただいたところ、「秋田を訪ねましょう」という声があがった。これをきっかけとして、翌2015年秋、秋田県の廃村62か所を計12日間で現地調査するという大きな仕事にご一緒することになった。佐藤晃之輔先生とは、事前の2月と10月に大潟村でお会いした。10年ぶりのことだった。

10月中旬の県北西部フィールドワークの開始前には、秋田県庁企画振興部を訪ねる予定があった。林さんは、大学の先生らしく、県庁や市役所を訪ねることはよくあることらしい。初めて県庁を訪ねる私は、訪ねるにあたって、何かしら自分ができることを考えた。そして、9月下旬にめぐった県南22か所の廃村の様子を、1か所1ページのA4判レポートにまとめて、その様子を紹介した。

その日の夕方、大潟村での食事会で佐藤先生にお見せしたところ、「面白いから、本にしてみてはどうか」という声をちょうだいした。

こうして、地方出版社 秋田ふるさと育英会、秋田文化出版と出逢うことになり、1年後の2016年10月、研究・調査の記録等をまとめ、一般向けの読み物にした『秋田・廃村の記録－人口減時代を迎えて』が完成した。

＊

『秋田・消えた村の記録』が、発行から18年を経て大きな力を発揮したように、良書は後世にわたって残り続ける。

紙媒体と電子媒体とはそれぞれ長所・短所があり、一概にどちらがよいとはいえないが、個人Webの運営と同時進行で、出版に係わってこれたから、廃村のライフワークがこのような形で成長したように思えてならない。

これからも「これは読者に伝えたい」というテーマを積極的に見つけて、末永く出版業界に係わっていくことができればと考えている。

＊

（あさはら あきお／Team HEYANEKO代表、団体職員）

新刊ダイジェスト

※価格は税込（消費税率8%）表示です。

『二十世紀酒場2　東京・さまよいはしご酒』●多田欣也著

酒は飲めば酔う。しかも安酒はさらに効く。記憶を失い、二日酔いの頭で反省するが暗くなる頃にはさて今日はどうしようかと街を選ぶ。酒飲みとは本当に困った人種なのである……と自省しながらも暖簾をくぐり、今日もはしご酒。社会人、特に会社員にとっては勉強の場であったはずなのに、決まった料理に飲み放題付きのセット料金と今やすっかり画一化された宴会スタイルを嘆き、隙間を上手に利用して成り立つガード下の店に歴史を感じ、知らない街での一人酒で地元の常連客の話に耳を傾け、東京がいつまでも混沌とした奥の深い街であってほしいと願う。

本書は昨年出た飲み歩きイラストエッセイの第二弾。今回も飲みながらのメモから生まれた80店が紹介されている。失敗談を反省しながらのぼやきをまとめた、あとがき代わりの“呑兵衛かるた”に著者の思いが溢れ、イラストから古き良き酒場の雰囲気が存分に伝わり、すぐにでもコップを手にしたくなる。

◆1404円・四六判・142頁・**旅と思索社**・東京・2016/9刊・ISBN9784908309021

『三江線写真集』●福間寿彦ほか著

広島県三次市と島根県江津市を結ぶJR三江線。江の川に沿って走る全長108.1キロの路線です。沿線に有名な観光地があるわけでもなく、特急列車も走っておらず、住民の日常の足という性格が強い路線です。そんな三江線が淡々と積み重ねる日々の明け暮れを捉えたのがこの写真集です。中国山地の奥深くを走るだけに、沿線の自然と歴史が織り成す風景は当たり前のように美しいものです。しかしそれ以上に惹かれるのは、地元の人々との関わりです。雪のホームに降り立つ学生、無人駅を掃除する人たち、一日数本しかない列車を見送る人、そこからはたとえ利用者が減り続けていても、この路線が地域にとってかけがえのないものであることが伝わってきます。現在三江線は遠くない将来の廃止が予定されています。地元の人たちに愛されるこの美しい路線も見納めとなるのか、それとも何とか活路を見出すのか、この写真集にふれた今では後者であることをなおさら願ってやみません。

◆2160円・240mm×250mm判・107頁・**今井出版**・鳥取・2016/7刊・ISBN9784866110301

『宮沢賢治童話論集』●中野隆之著

生誕120年、宮沢賢治への関心は衰えることを知らない。賢治ファンそれもディープでマニアックな人、我こそは賢治ワールド最高の理解者なりという輩には、うってつけの本が出た。「なめとこ山の熊」「ポラーノ広場」「風の又三郎」「オツベルと象」「グスコーブドリの伝記」等々、17篇の童話をとりあげ、微に入り細を穿つかのような解釈を行いつつ、賢治の作品の底に流れる「賢治精神」を洗い出していく。「ポラーノ広場」の章での「イーハトーブ」論などに見られるように、賢治は、地元岩手・花巻で畑を耕しながら農民に働きかけ（羅須地人協会）、「世界ぜんたいが幸福にならないうちは個人の幸福はあり得ない」（農民芸術論概論）という思いを実践していく。当時の賢治はまったく孤立していたかのように考えられていたが、じつはこの思いは、当時、一部の心憂える東北の青年、たとえば寒川道夫や松田甚次郎によって、それぞれの故郷で受け継がれていったことが本書によって明らかにされている。

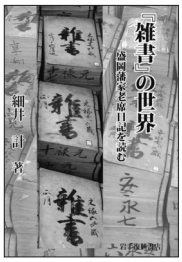
◆2700円・A5判・406頁・**のぶ工房**・福岡・2016/7刊・ISBN9784901346610

『統合失調症をほどく　－中井久夫と考える患者シリーズ2』●中井久夫著

統合失調症を深く探究してきた精神科医の中井久夫の著作を、患者と医療者がともに読むという試みのシリーズ第二巻。病気の経過を辿った第一巻から、この第二巻では、病気の様々な症状とされるものを中井のテキストに沿って理解していく。例えば中井は〈あせり〉と〈ゆとり〉というわかりやすい言葉をよく使う。本書の中の〈考える患者〉たちはこの言葉を使って、「発症前はあせりが90%でそれが普通だと思っていた」あるいは「あせりが100%でゆとりがなかったが現在は10%くらいに下がった」と自らを相対化し客観視している。こういったところに、「重要なのは患者の置かれている状況へのエンパシーである」また「患者に通じる普通の言葉のボキャブラリーをふやすこと」という中井の治療思想が実践され花開いている現実を見ることができるのではないか。一巻の読後にも増して、本シリーズが、統合失調症の予防や治療にとって、今後様々な場所で希望になるに違いないという思いを深くした。

◆2700円・四六判・255頁・**ラグーナ出版**・鹿児島・2016/9刊・ISBN9784904380536

『【雑書】の世界　ー盛岡藩家老席日記を読む』●細井　計著



寛永２年（1644）、盛岡藩三代藩主南部重直が家老席に指示してつけ始めた『雑書』と呼ばれる日記。代々引き継がれ、天保11年（1840）まで200年近く続いた。途中14年分が欠けるが、190冊もが県指定文化財としてもりおか歴史文化館に保存されている。藩政を中心に庶民生活に至る領内のあらゆる出来事、更に幕府や他藩の動向までも含む第一級の地域史料である。さらに驚くべきは、1986年から翻刻出版事業が開始され、既に163年分が刊行されていることである。長年この翻刻と研究に携わり隅々まで熟知した著者が、参勤交代の道中心得や煩わしい人馬調達業務、学問好きの将軍綱吉に翻弄される藩内の儒学振興と弾圧、藩主の頭髪の悩み、岩手山の噴火に動転する村の世話役たち、離縁を願い出た町民女房の調停、盛んになった民衆の伊勢参りに関わる風紀粛正など、誰もが興味関心を引きそうな出来事を抽出し、背景や周辺領域の事柄を交えて優しく解き明かしてくれる。

◆2000円・四六判・266頁・**岩手復興書店**・岩手・2016/7刊・ISBN9784907100322

地方小出版流通センター　ジャンル別新刊案内

2016年9月1日～30日
流通センター着

※各ジャンル内での出版社名は所在地の北から南の順に並んでいます。

価格は税込（消費税率8%）表示です。

【雑誌】

◆**ｆａｕｒａ**　５３　大橋　弘一編　Ａ４　80頁　１０２８円　ナチュラリー［北海道］　978-4-503-20946-7　16/09

◆**ゆきのまち通信**　１６６　企画集団ぷりずむ編　Ａ５　49頁　５００円　企画集団ぷりずむ［青森］　978-4-503-20941-2　16/09

◆**Ｒａｄｉａｔｉｏｎ　Ｅｎｖｉｒｏｎｍｅｎｔ　ａｎｄ　Ｍｅｄｉｃｉｎｅ　Ｖｏｌ．５**　Ｎｏ．２　Radiation Environment and Medicine編集員会編　Ａ４　62頁　１１８８円　弘前大学出版会［青森］　978-4-503-20950-4　16/08

◆**会津人群像**　Ｎｏ．３３　阿部　隆一編　Ｂ５　140頁　１２９６円　歴史春秋社［福島］　978-4-89757-890-3　16/09

◆**ＳＰＲＩＤＥ**　ｖｏｌ．０４　渡辺　直明編　Ａ４　111頁　７３０円　下野新聞社［栃木］　978-4-88286-626-8　16/10

◆**ＧＲＥＥＮ　ＲＥＰＯＲＴ**　４４１　廣瀬　仁編　Ａ４　192頁　２８００円　地域環境ネット［埼玉］　978-4-905457-73-2　16/09

◆**ほほづゑ**　第９０号　長谷川　智恵子編　Ａ５　139頁　６００円　三好企画［千葉］　978-4-908287-10-7　16/10

◆**かまくら春秋**　Ｎｏ．５５６　伊藤　玄二郎編　Ｂ６　91頁　３２０円　かまくら春秋社［神奈川］　978-4-7740-0693-2　16/08

◆**くらしと教育をつなぐ　Ｗｅ**　Ｎｏ．２０４　中村　泰子編　稲邑　恭子編　Ａ５　80頁　８６４円　フェミックス［神奈川］　978-4-903579-73-3　16/10

◆**仏事**　Ｎｏ．１９２　奥村　昇編　Ａ４　100頁　１６２０円　鎌倉新書［東京］　978-4-503-20939-9　16/09

◆**月刊住職**　Ｎｏ．２１４　矢澤　澄道編　Ａ５　201頁　１４０４円　興山舎［東京］　978-4-908027-26-0　16/09

◆**子どもの文化**　Ｎｏ．５４５　片岡　輝編　Ａ５　47頁　３１３円　子どもの文化研究所［東京］　978-4-503-20954-2　16/10

◆**茶道の研究**　Ｎｏ．７３０　三徳庵　Ａ５　82頁　５４０円　三徳庵［東京］　978-4-503-20937-5　16/09

◆**書２１**　Ｎｏ．５８　匠出版編　Ａ４　96頁　２１６０円　匠出版［東京］　978-4-925212-65-6　16/08

◆**東京かわら版**　Ｎｏ．５１７　佐藤　友美編　204mm×108mm判　154頁　５００円　東京かわら版［東京］　978-4-503-20952-8　16/09

◆**俳句四季**　Ｎｏ．４７０　西井　洋子編　松尾　正光編　Ｂ５　160頁　９３１円　東京四季出版［東京］　978-4-503-20945-0　16/09

◆**みんなの図書館**　Ｎｏ．４７４　図書館問題研究会編　Ａ５　80頁　８１０円　図書館問題研究会［東京］　978-4-503-20944-3　16/09

◆**パズル通信ニコリ**　Ｖｏｌ．１５６　ニコリ編　247mm×148mm判　122頁　９０７円　ニコリ［東京］　978-4-89072-656-1　16/09

◆**おりがみ**　Ｎｏ．４９５　日本折紙協会編　Ａ４　51頁　７８６円　日本折紙協会［東京］　978-4-86540-041-0　16/10

◆**海運**　Ｎｏ．１０６８　日本海運集会所編　Ａ４　84頁　１２９６円　日本海運集会所［東京］　978-4-503-20938-2　16/09

◆**Ｆｕｊｉ　Ａｉｒｗａｙｓ　Ｇｕｉｄｅ**　Ｎｏ．６２９　フジ・インコーポレーテッド編　Ｂ５　97頁　３８０円　フジ・インコーポレーテッド［東京］　978-4-503-20951-1　16/09

◆**ａｒｏｍａｔｏｐｉａ**　Ｖｏｌ．１３８　木村　凌子編　Ｂ５　110頁

売行良好書

期間：2016年9月15日～10月14日

［出荷センター扱い］ ※価格は税込（消費税率8%）表示です。

(1)『ブックトークのきほん』648円・東京子ども図書館　(2)『赤ずきんとオオカミのトラウマ・ケア』1944円・アスクヒューマンケア　(3)『医者、用水路を拓く』1944円・石風社　(4)『炭坑の絵師　山本作兵衛』1944円・書肆侃侃房　(5)『不登校は1日3分の働きかけで99%解決する』864円・リーブル出版　(6)『川原慶賀の「日本」画帳』2916円・弦書房　(7)『村上春樹とイラストレーター』1944円・ナナロク社　(8)『絵描きと画材屋』1836円・忘羊社　(9)『まぁ映画な、岡山じゃ県2』1728円・蜻文庫　(10)『ホッピー文化論』1296円・ハーベスト社　(11)『ボクシングと大東亜』2376円・忘羊社　(12)『三江線写真集』2160円・今井出版　(13)『鯉のぼりの御利益』1201円・東京かわら版

［三省堂書店神保町本店　センター扱い図書］ ※価格は税込（消費税率8%）表示です。

(1)『昭和プロレスマガジン　40』1000円・昭和プロレス研究室　(2)『東京かわら版　10月号』500円・東京かわら版　(3)『本の雑誌　401号』720円・本の雑誌社　(4)『文庫本宝船』2700円・本の雑誌社　(5)『吉野朔実は本が大好き』3240円・本の雑誌社　(6)『村上春樹とイラストレーター』1944円・ナナロク社　(7)『鯉のぼりの御利益』1200円・東京かわら版　(8)『叫びの都市』2592円・洛北出版　(9)『朝さっと作るお弁当125』977円・ベターホーム出版局　(10)『ホッピー文化論』1296円・ハーベスト社

［ジュンク堂書店池袋店　地方出版社の本―センター扱い図書］ ※価格は税込（消費税率8%）表示です。

(1)『換気口』2700円・エディションイレーヌ　(2)『夜にあやまってくれ』1836円・書肆侃侃房　(3)『奥多摩登山詳細図（東編）　大岳山・御嶽山・川苔山・棒ノ嶺　全130コース』950円・吉備人出版　(4)『やえやまガイドブック　改訂版』1296円・南山舎　(5)『不登校は1日3分の働きかけで99%解決する』864円・リーブル出版　(6)『叫びの都市』2592円・洛北出版　(7)『つまみ細工』2160円・かりん舎　(8)『緊急出版　特別報道写真集　平成28年熊本地震』1000円・熊本日日新聞社　(9)『出口王仁三郎聖師　善言美詞　祝詞解説』1512円・みいづ舎　(10)『水俣病60年の歴史の証言と今日の課題』864円・熊本日日新聞社

以下ホームページ等でも各種情報提供を行なっております。ご利用ください。
ＵＲＬ：http://neil.chips.jp/chihosho/　　ツイッター公式アカウント：@local_small

トピックス —— ★★★

▼岩波ブックサービスセンター信山社の柴田信（しん）さんが、10月12日に虚血性心不全のため急逝されました。享年86歳でした。

柴田さんの書店論によって学んだ方は多く、『出版販売の実際』（共著・1978年刊）、『ヨキミセサカエル―本の街・神田神保町から』（1991年刊・共に日本エディタースクール出版部）では、前例の少なかった書店の現場論を展開されました。柴田さんは、教師生活の後、当時は池袋の大型書店として名を成していた芳林堂書店の店長として、当時では最先端の「単品管理システム」を作り出し、それを世に問うたのが『出版販売の実際』です。芳林堂から、信山社に移り、本の町神保町の世話役として、非再販本を期間限定で可能とした「神保町ブックフェスティバル」の立ち上げから今までの主要実行委員として、また「神保町を元気にする会」の事務局長として80歳を超えても元気に活躍されていました。柴田さんの一生については、昨年、晶文社から出た石橋毅史著『口笛を吹きながら本を売る』をご覧ください。直接柴田さんから取材しています。

「お別れの会」が11月21日（月）一ツ橋の如水会館2Fにて行われます。

郵便販売のご注文方法

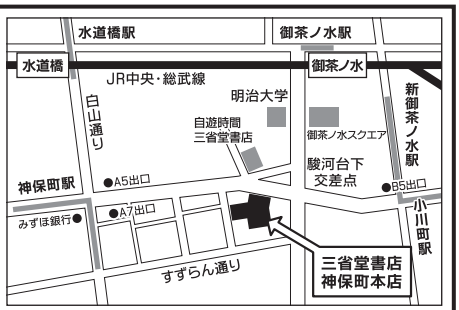
◎お名前、お届け先（郵便番号、住所）、連絡先お電話番号、ご注文品の書誌名、冊数の必要事項を明記のうえ、下記までＦＡＸでご連絡ください。
◎送料は、冊子小包・メール便共実費でお送りさせて頂きます。基本的にメール便は、一冊210円でお送り致します。（メール便の到着は、発送してから3～4日かかります。）お急ぎの方、その他ご要望がございます場合はお気軽に下記までお問い合せ下さいませ。
◎なお書籍お買上総計（税抜き価格）が5,000円以上の場合は、送料をサービスさせて頂きます。

★地方・小出版流通センター
ＦＡＸ：０３－３２３５－６１８２

三省堂書店
BOOKS SANSEIDO
営業のごあんない

神保町本店 4階
地方出版・小出版物フロア
営業時間 10：00 AM～8：00 PM
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-1
TEL. 03-3233-3312(代)
URL. http://www.books-sanseido.co.jp

本店4階売場では、地方・小出版流通センター扱いの新刊全点のほか、地域別に書籍を取り揃えております。また、地域ならではのタウン誌、趣味の雑誌も扱っております。



地方・小出版物のデータになります。綴じて保存してください。